

MediBic



会社説明会

株式会社メディビックグループ

2008年2月14日

www.medibic.com

証券コード 2369



1. 会社概要

会社概要

2007年12月期 連結業績

2008年12月期 予算

バイオマーカーとPGx

1-1. メディビックグループ 会社概要

資本金	20億5,839万円（2007年12月末現在）
設立	2000年2月17日
本社	〒105-0003 東京都港区西新橋2-11-6 ニュー西新橋ビル5F
代表取締役	橋本 康弘（易周）
売上高	780百万円（2007年12月期 連結）
公開市場	東証マザーズ（証券コード2369）
主な事業内容	バイオマーカー創薬支援事業、創薬事業

持株会社

株式会社メディビックグループ

上海事務所（中国）

グループ企業

関西ラボ

株式会社メディビック

株式会社サイトクオリティ

MediBIC Life Sciences, Inc.

株式会社メディビックファーマ

株式会社Asia Private Equity Capital

1-2. Generation Groupについて

- ・バイオ企業への投資実績を持つ
- ・当社のビジネスモデルに深い理解を示す
緊密なパートナーシップが望める
- ・中長期的な経営改善による事業価値の
向上を投資方針としている
- ・協業を望める優良企業への投資も
活発に行っている



当社グループにとって企業価値を高められるパートナー

1-3. 当社グループ 創業理念と事業展開

<創業理念>

副作用の少ない、個人に適した「テーラーメイド創薬」の実現を目指す

バイオマーカー創薬支援事業

バイオマーカーなどの情報を活用し医薬品開発を支援する。

主要サービスはPGx試験を支援するPGxトータルソリューションサービスなど。

創薬事業

国内外の医薬品候補化合物を発掘し、独自に付加価値を高めていく。

現在、抗がん剤グルフォスファミドの国内臨床試験を進めている。

1-4. メディビックグループ2007年12月期連結業績

■主要経営指標(連結)

(単位:千円)

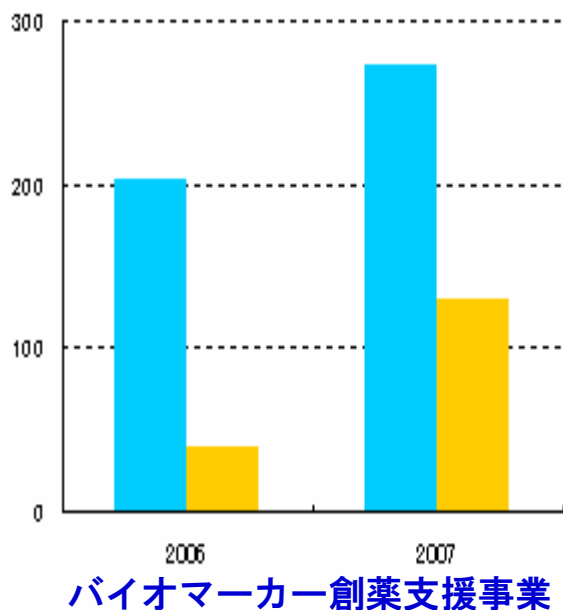
	2006年	2007年	差異
売上高	1,648,430	780,604	△867,825
経常利益	△38,642	△868,551	△829,909
当期純利益	△203,322	△1,314,775	△1,111,453
純資産	2,319,847	2,068,349	△251,497
負債	1,759,870	145,639	△1,614,230
総資産	4,079,717	2,213,989	△1,865,728

- ・投資・投資育成事業スピンオフや固定資産等評価損による特別損失により、
大幅な赤字を計上。
- ・資金調達によりキャッシュフロー安定化 負債は大幅に改善。

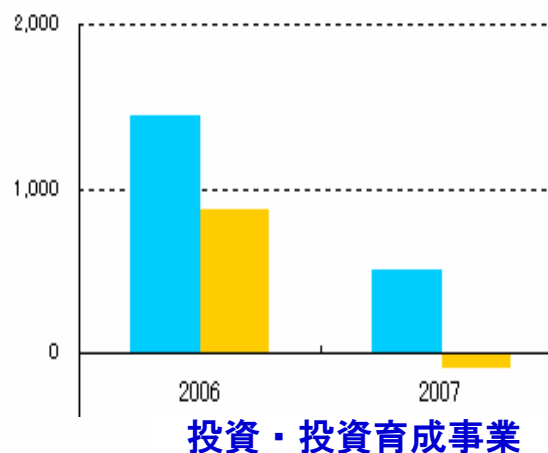
1-5. セグメント別業績・販管費推移(2006-2007)

(単位は全て百万円)

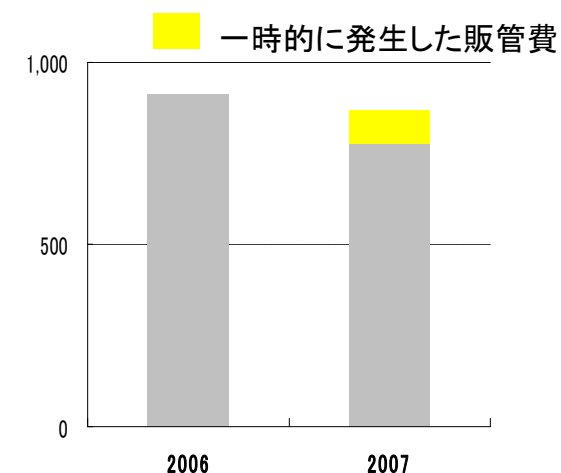
売上高・売上総利益の推移



■ 売上高 ■ 売上総利益



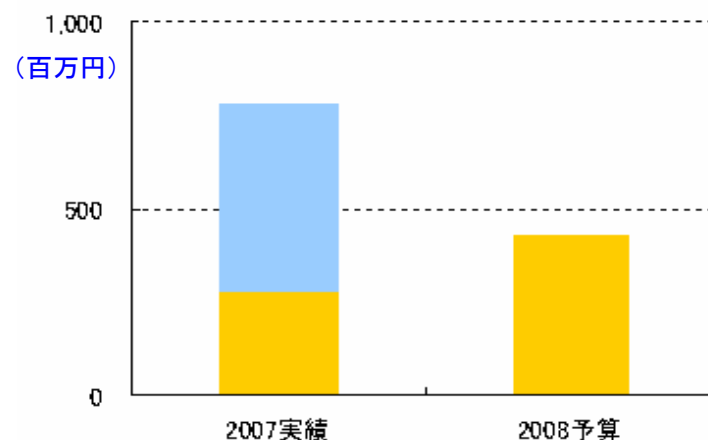
販管費の推移



バイオマーカー創薬支援事業 …… 売上高 +35%増。売上総利益も増加。
投資・投資育成事業 …… 中間期にて分離。投資損失引当金等により売上・利益共に前年比大幅減。
販管費 …… 削減は5%に留まる。再編のため一時的にかかる費用 約92百万発生のため。
 2008年は期首からの再編施策実行により約35%の削減予定。

1-6. メディビックグループ 2008年12月期 予算

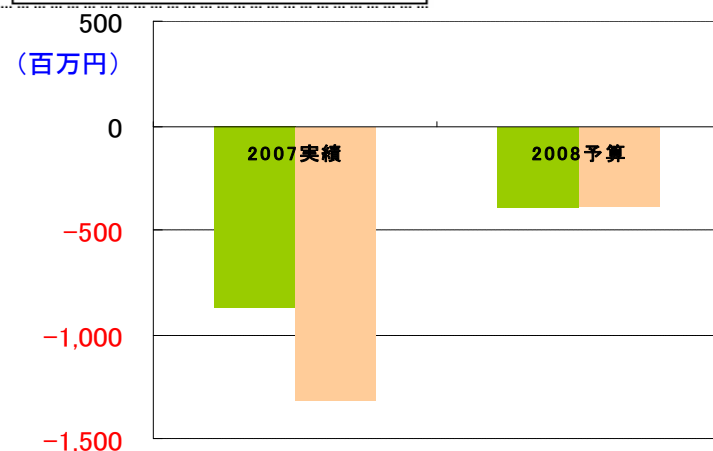
■ バイオマーカー創薬支援事業 ■ 投資・投資育成事業



	2007年 実績	2008年 見込	差異
売上高	780	427	△353
経常利益	△868	△395	+472
当期純利益	△1,314	△381	+932

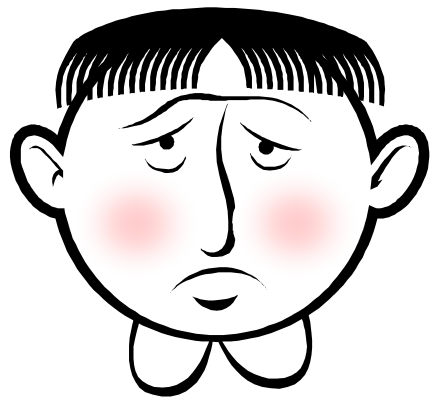
(単位: 百万円)

■ 経常利益 ■ 当期純利益



投資事業完全分離により売上減だが、
バイオマーカー創薬支援事業売上+55%増、
販管費削減35%約3億円予定により
利益大幅改善見込。
2009年黒字化へ。

1-7. 遺伝子の個人差



アルコールに弱い人



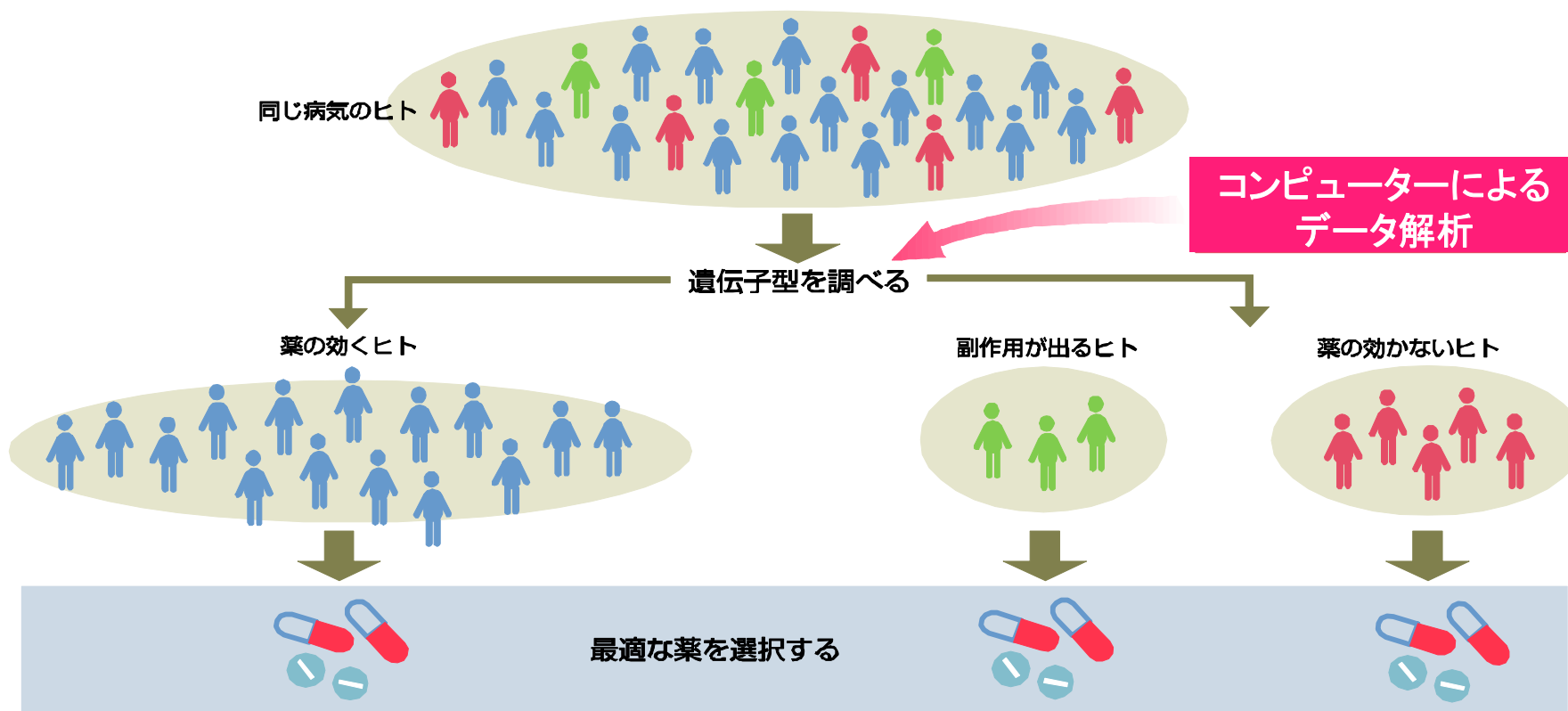
アルコールに強い人

遺伝子の違い

1-8. 個人差を利用したテーラーメイド創薬とは

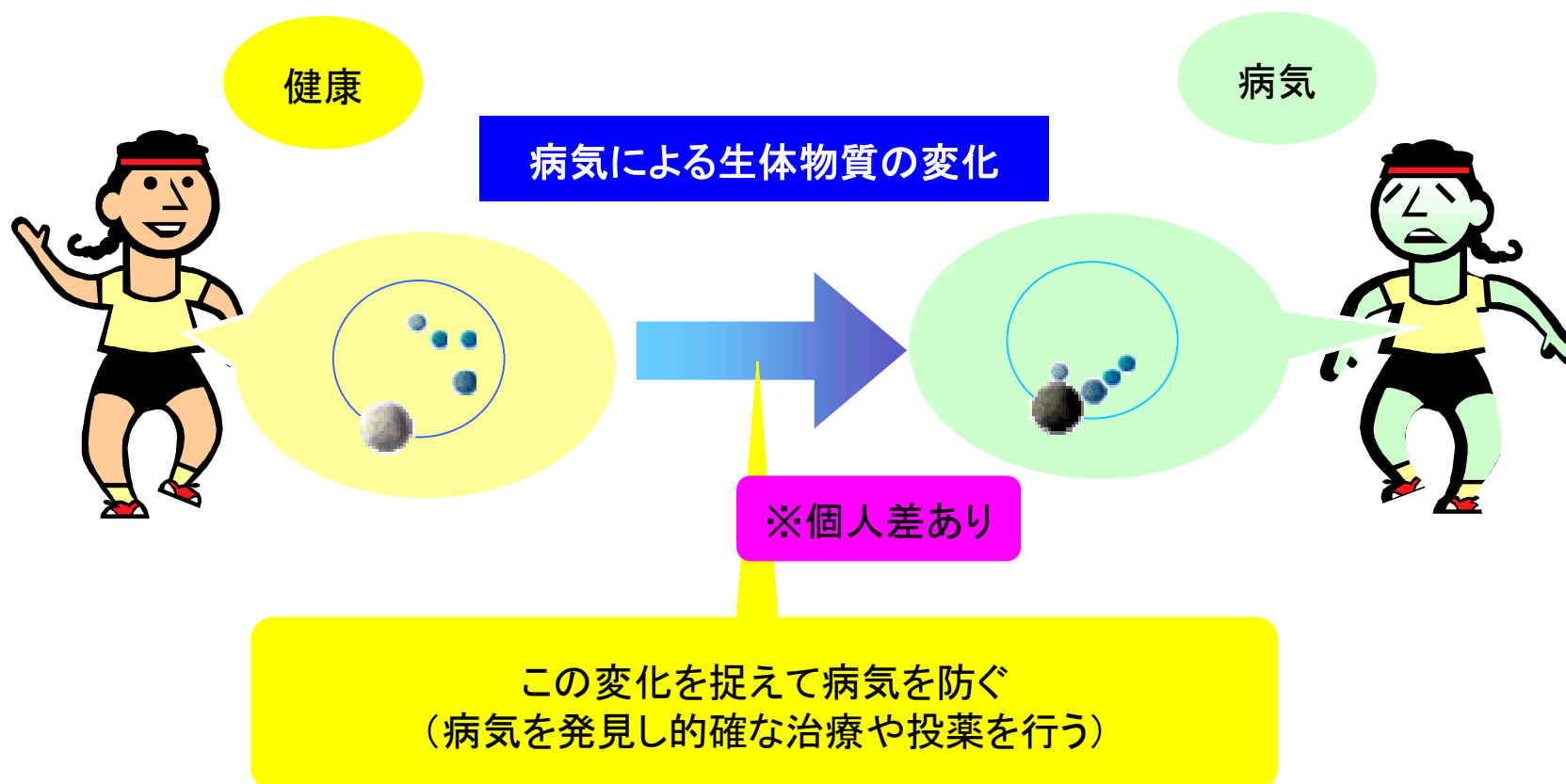
遺伝子に加えて たんぱく質解析、
メタボローム解析、画像解析などの
バイオマーカーを活用する。

薬の投与前に、効く人効か
ない人を分類推定



1-9. バイオマーカー

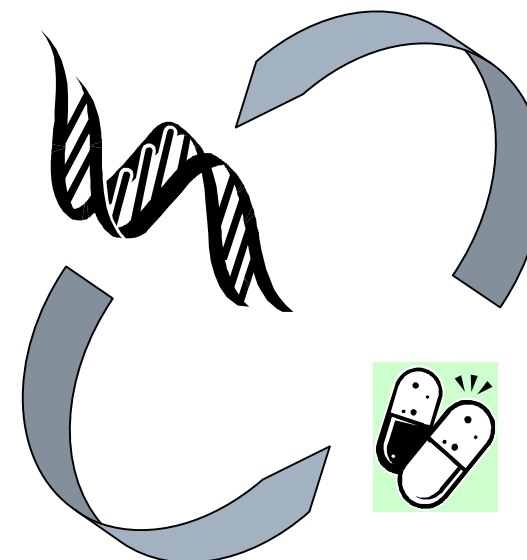
バイオマーカー 体内の生物学的変化を定量的に把握するための指標



1-10. ファーマコゲノミクス (PGx) 試験

PGx試験 薬の効き目や副作用と遺伝子の関係を調べる試験

病気を薬剤の効き目や副作用と遺伝子との関係を調べる試験。このような遺伝子情報に基づいた結果を利用することで、より安全で効果の高い薬の処方、また、そのような医薬品を効率的に開発出来るようになる。



※ PGx (ファーマコゲノミクス Pharmacogenomics)

メディビックはPGx試験を全面的に支援できるサービス体制を構築している



2. 当社のビジネス

創薬事業

バイオマーカー創薬支援事業

健康・医療領域への活用

当社の使命とこれからの社会

2-1. 創薬事業（抗がん剤グルフォスファミドの開発）

	適応	'04	'05	'06	'07	'08
海外 (Threshold社)	すい臓がん	P III	[Yellow bar]			
	すい臓がん (GEM併用)	P I / II	[Yellow bar]			
	小細胞肺癌			P II	[Yellow bar]	
	卵巣がん			P II	[Yellow bar]	
	軟部組織肉腫			P II	[Yellow bar]	
国内 (メディビック)	固形がん			P I	[Purple bar]	

米国スレッシュホールド社と共同開発中で、国内では当社が固形がんを対象とした第 I 相臨床試験を実施中。年内には試験結果を発表する予定。

2-2. バイオマーカー創薬支援事業

バイオマーカーなどの情報を活用し、テーラーメイド創薬を促進する
医薬品開発を支援している。

・PGxトータルソリューションを中心に
バイオマーカー探索やデータ解析など
を行っている。

PGxトータルソリューション

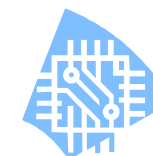
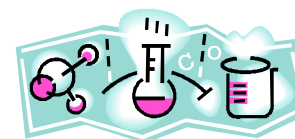
PGx試験を総合的に支援

バイオマーカー探索ソリューション

必要なバイオマーカーを探索

データ解析ソリューション

高度なデータ解析サービスを提供



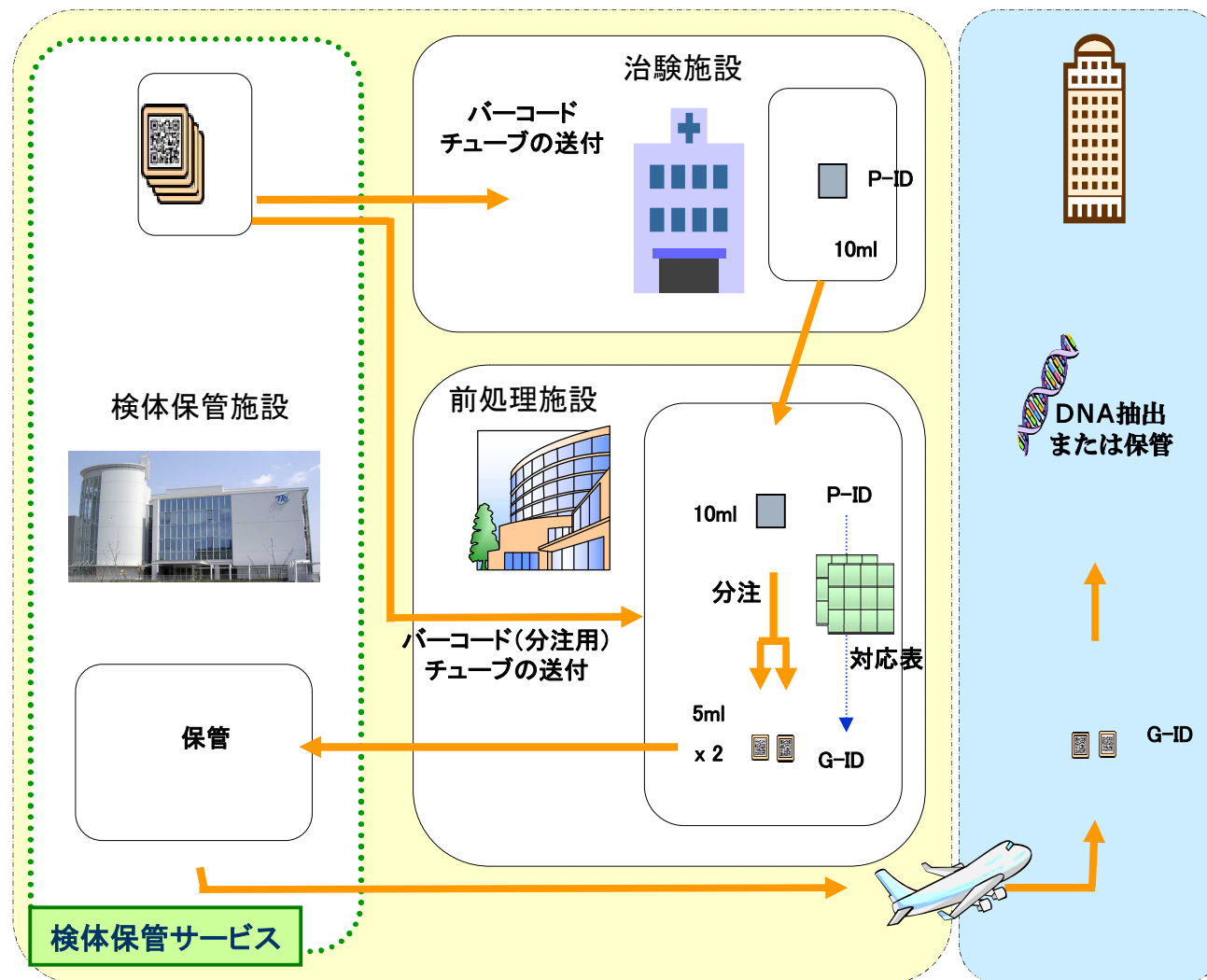
2-3. バイオマーカー創薬支援事業 2007年

- ・PGx試験を継続的に受注。検体保管が順調。
- ・PGx試験に係る検体の長期保管・管理が可能な、検体管理システムの販売開始
- ・PGxトータルソリューションにおいてAffymetrix Japanと協同支援を提携
- ・SMO事業を展開するサイトクオリティーを子会社化
- ・バイオチップコンソーシアム立ち上げに参画。現在事務局を務める。

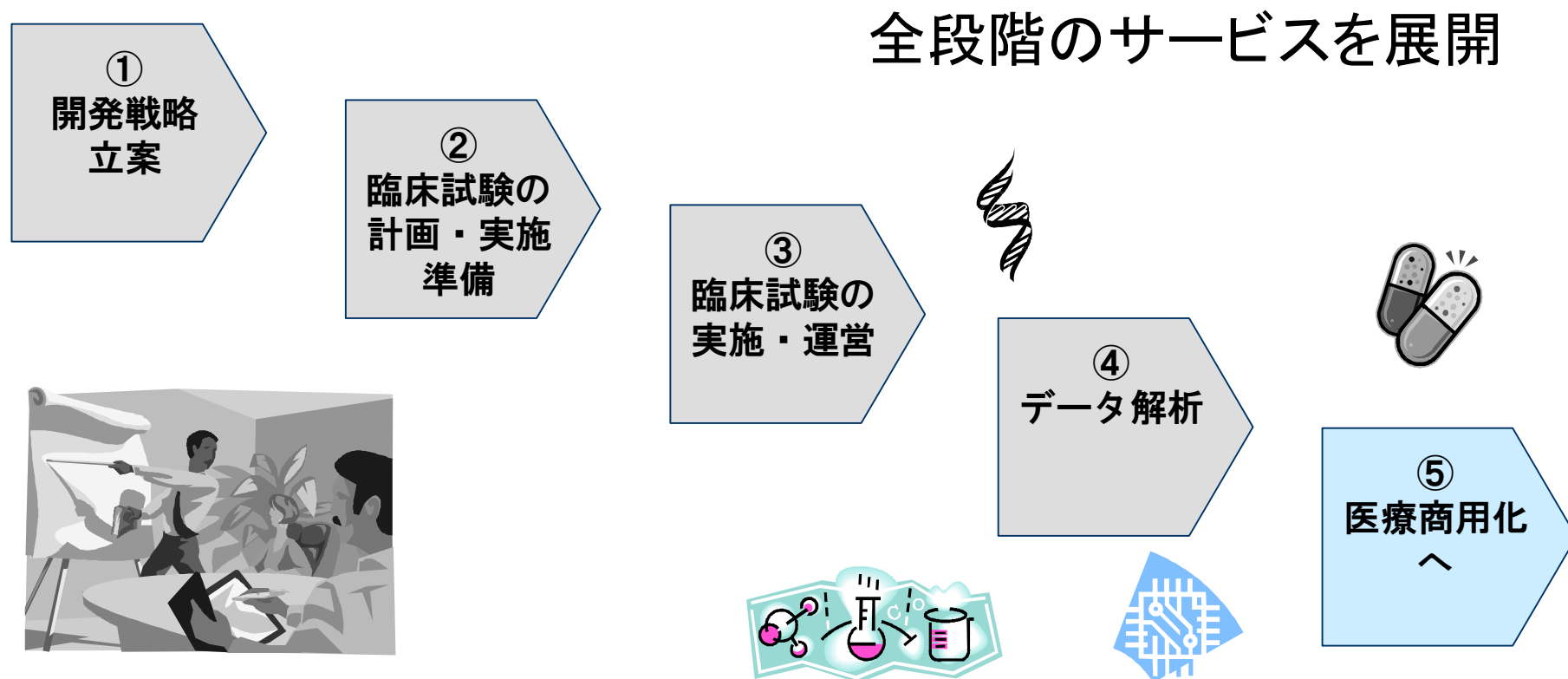
事業基盤を強化し、これまでの創薬市場に加え、健康・医療市場への展開も図れる体制を整えた。

2-4. メディビック PGx試験支援サービス

- 高品質
- 経験豊富
- 一元管理
- 独自の匿名化
- 独自の符番体系
- セキュリティー管理
- 安全対策
- 災害対策



2-5. PGx試験支援サービス 段階別サービス



PGx試験に対し総合的なサービスを提供しているほか、段階別に必要とされているサービスを、顧客のニーズに合わせて提供している。

2-6. 検体保管サービス

公的機関との共同事業

Foundation for Biomedical Research and Innovation
財団法人先端医療振興財団



共同事業者

2005年11月7日～

「検体保管サービス事業」の開始



関西ラボ
臨床研究情報センター(TRI)3F

公的機関で、国内唯一の
検体バンキング施設を持つ

- 国内初の公的機関を利用したバンキング
- 医薬品開発規制のGLPに準拠した組織体制とSOPを完備しての検体管理
- 最新かつ厳重設備による情報セキュリティ・警備セキュリティ
- 24時間の有人監視で迅速な非常時対応



2-7. 検体保管施設（臨床研究情報センター TRI）



2-8. セキュリティ管理・災害対策・品質管理

セキュリティ管理 ・安全対策

- 入退室記録
- カメラ付き人感センサー
- 酸素濃度モニタリング



災害対策

- 熱感知器・煙感知器
- 耐震対応
- 停電対応



品質管理

- 温度記録
液体窒素タンク
超低温フリーザー
- 液体窒素量モニタリング
液体窒素タンク



2-9. グローバルネットワーク



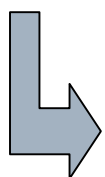
MediBic Life Sciences (米国) や 上海事務所 (中国) から得られる情報や、海外企業との提携ネットワークの効果的な活用で、高度な経営を行っている。

2-10. バイオチップコンソーシアム

バイオチップコンソーシアム (Japan MicroArray Consortium)

略称: JMAC ジェイマック

2007年10月、経済産業省主導のもと、メディビックを始め、東芝、東レなど、バイオチップに関連する産業界が、バイオチップの標準化、産業化を目指した業界団体JMACを設立。メディビックは事務局を務める。

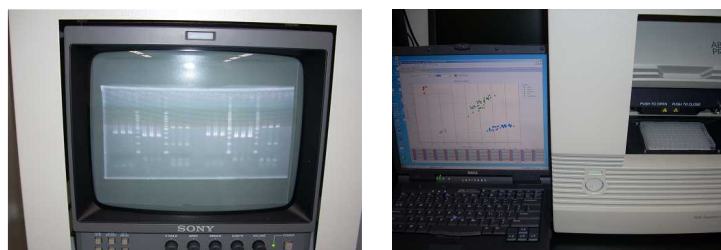


メディビックは
PGx活用を視野に



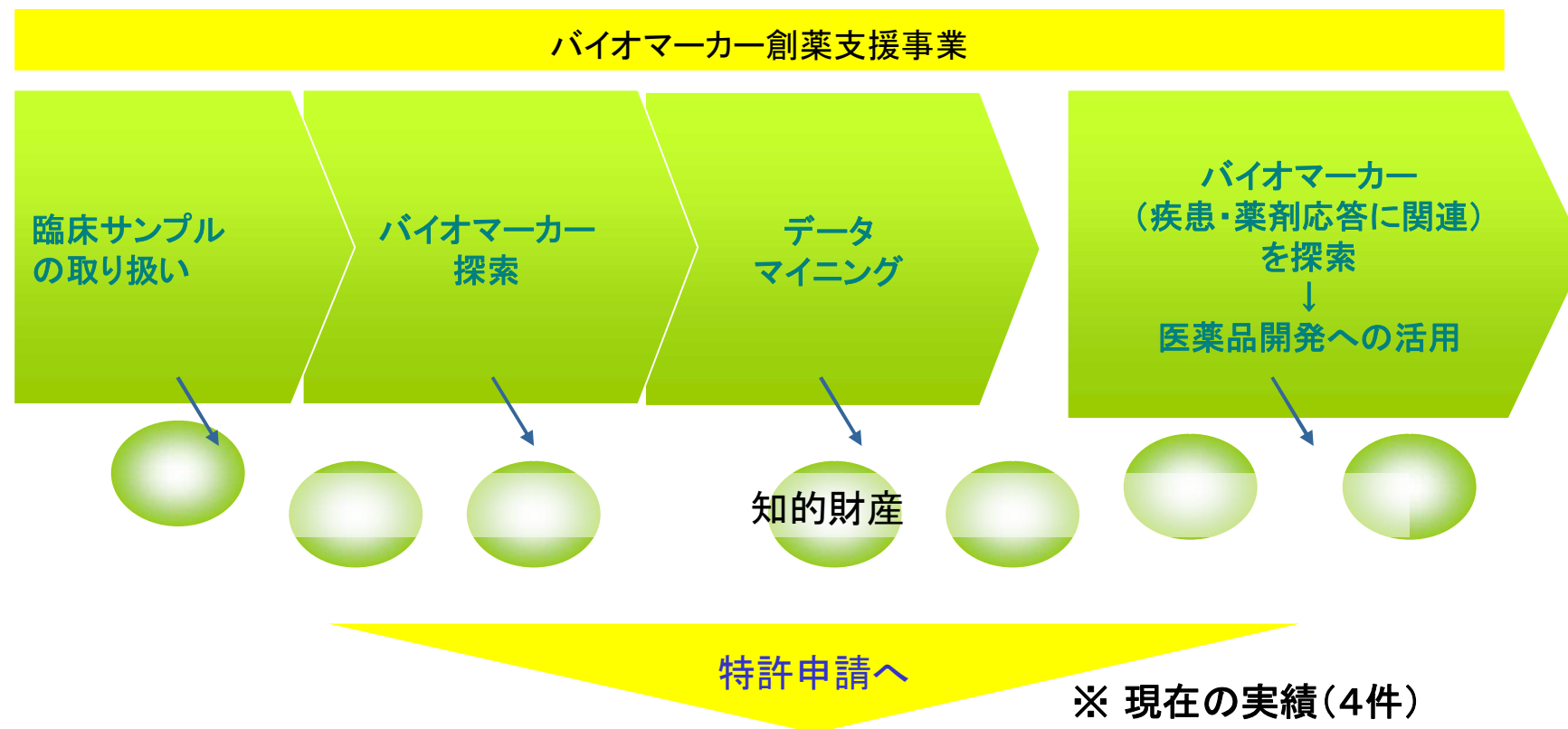
バイオチップの国内標準化・産業化の促進は、テーラーメイド創薬を進めていく上で、必要な環境づくり。JMAC設立の一助を担った。

2-11. メディビック 事業基盤の強化(解析技術 稼動開始)



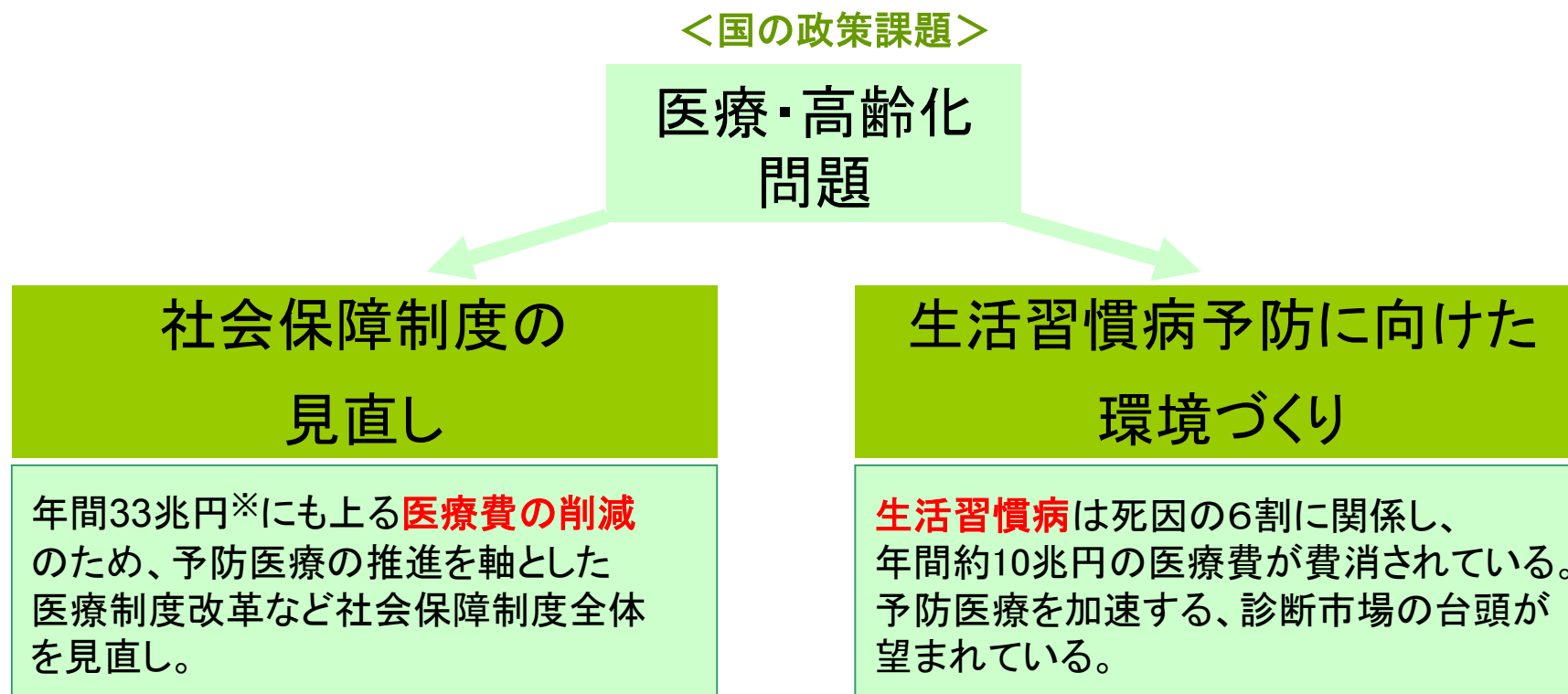
高いセキュリティー管理、安全対策、災害対策、品質管理などが施された施設内で、DNA抽出や解析を行える体制を整えている。

2-12. メディビック 基盤技術と知的財産の活用



バイオマーカー創薬支援事業で培った基盤技術は、
健康・医療など、さまざまな領域への活用が可能 ⇒ビジネスチャンス

2-13. 健康・診断市場成長の背景（行政）



※ 厚生労働省「国民医療費概況(05年度)」07年8月公表

テーラーメイドな健康状態・疾患管理による創薬・医療・健康管理支援は、これらの政策課題の解決の一助に。今後の成長が确实視される潜在市場。

2-14. 健康・医療領域への活用とは(遺伝子情報の診断事例)



リスク保有者や罹患者は、医療者や保険指導者などから、より効果的な判断を受けられる。さらに、自らが積極的な健康改善に取り組める。

2-15. 海外 PGx産業の拡大

■ 23andMe(米国)

Google出資※の企業。2007年11月に米国で、2008年1月からカナダ、欧州49カ国で、Webベースの遺伝子情報サービス開始。
個人がWebベースのインタラクティブツールと最新のDNA分析を通じ、自分の遺伝子情報を入手できるというサービスを廉価で提供開始。

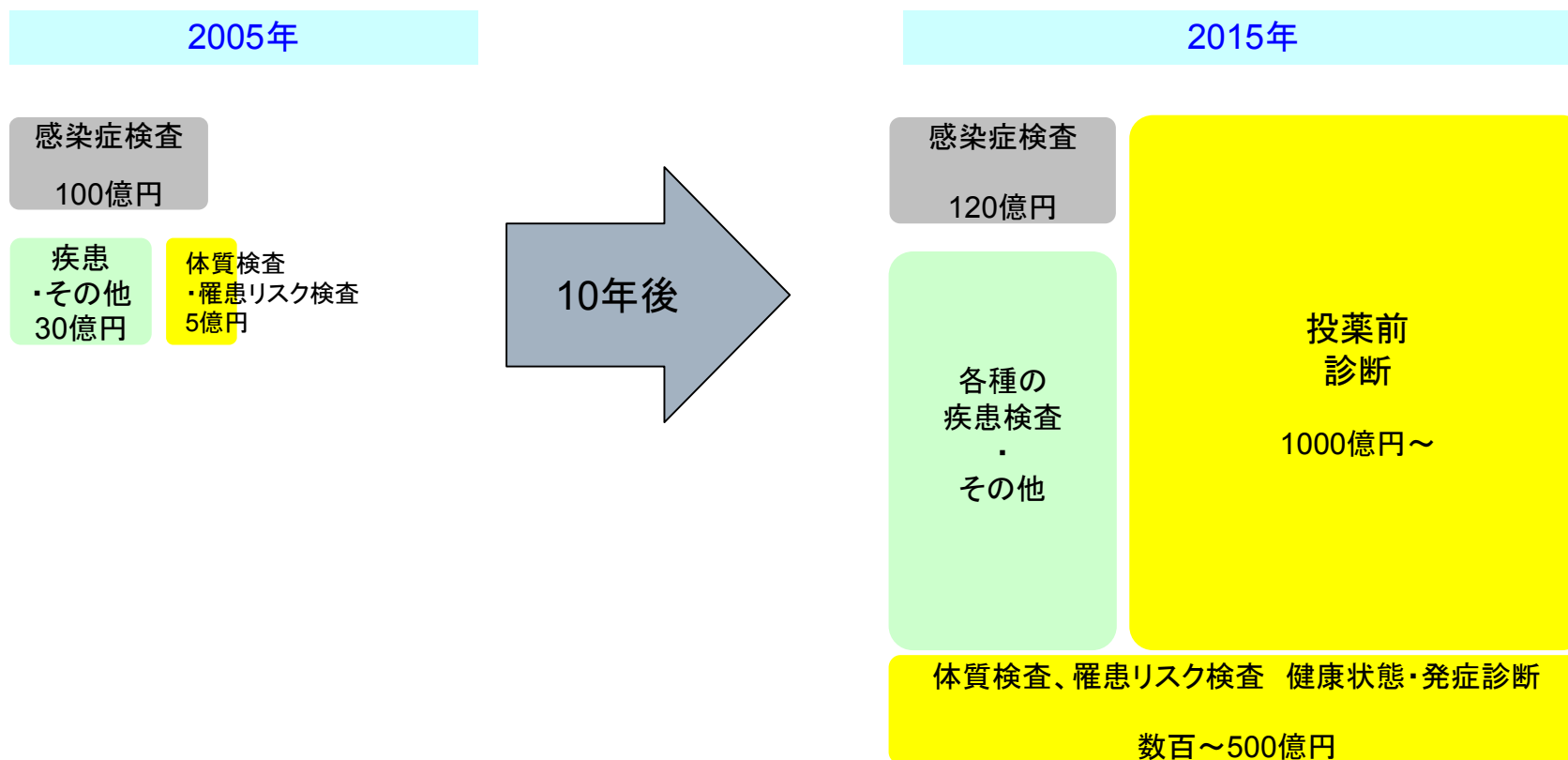
※ Googleの出資額は390万ドル

■ DNAdirect社(米国)

個人ベースの遺伝子検査を始めるなど、健康管理事業を開始。

健康・診断市場の世界では、個人向けの遺伝子解析や健康管理支援を行う、パーソナルPGxビジネスが台頭し始めている。

2-16. 健康・診断(検査)市場の国内マーケットの展望



2006年9月 シード・プランニング社調べ

予防医療・個別化医療化への国策と並行し、国内での個人向けの遺伝子解析や健康管理支援を行う検査市場も拡大していく、と予測できる。

2-17.PGxを取り巻く世界の動向(行政)とメディビックPGx



日本 厚生労働省

05年3月 パブリックコメントの結果を公表。

05年3月 米国でのガイダンスを受けて、「医薬品の臨床試験におけるPGx(ファーマコゲノミクス)の利用指針」を作成すべく、治験における遺伝子データの報告を通知。



米国食品医薬品局(FDA)

05年3月 新薬申請のためのファーマコゲノミクス・データ提出(任意提出)のガイダンス発表。



欧州医薬品審査庁(EMA)

04年7月 ファーマコゲノミクスの概念と遺伝子情報の取り扱い方を解説したリーフレットを作成し、啓蒙を行う。

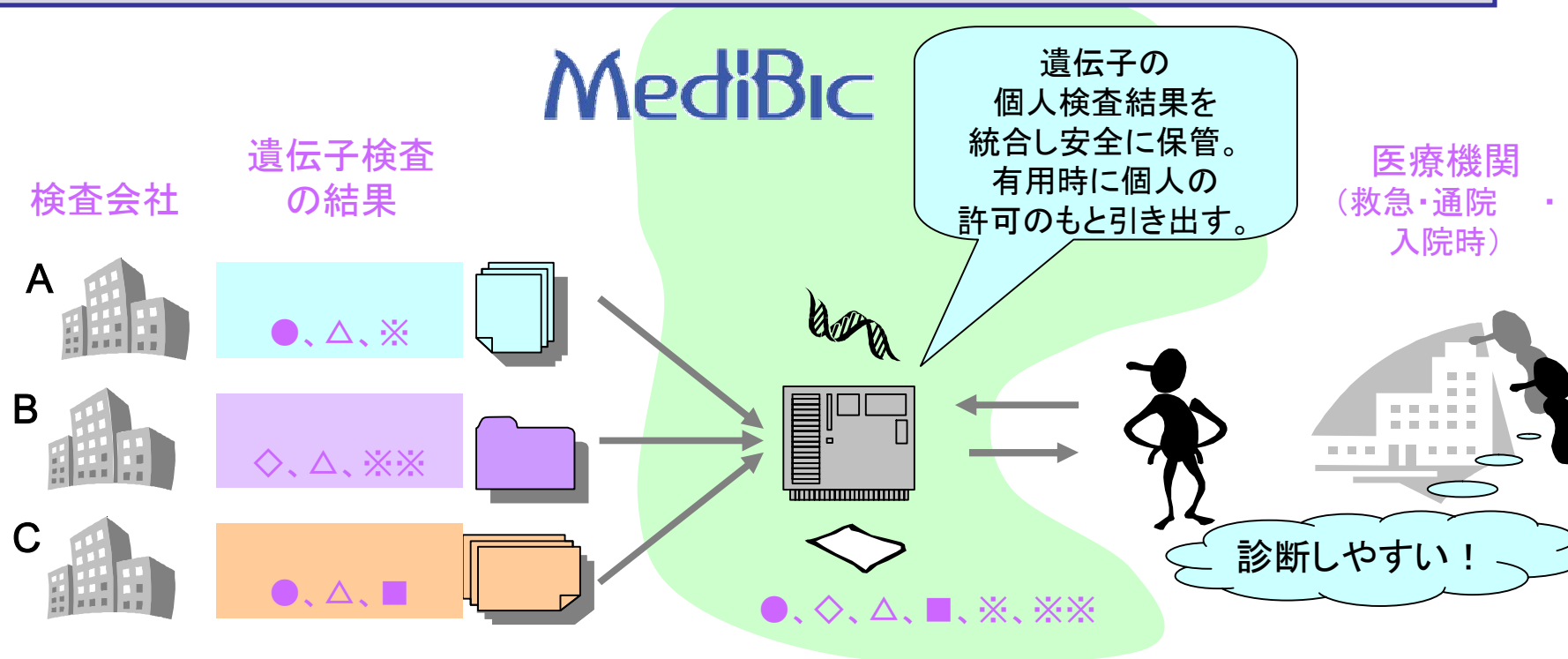
日本のガイドラインの遅れ

⇒メディビックのPGx事業は堅調な成長。

しかし、大きな成長は今しばらく時間が掛かる。

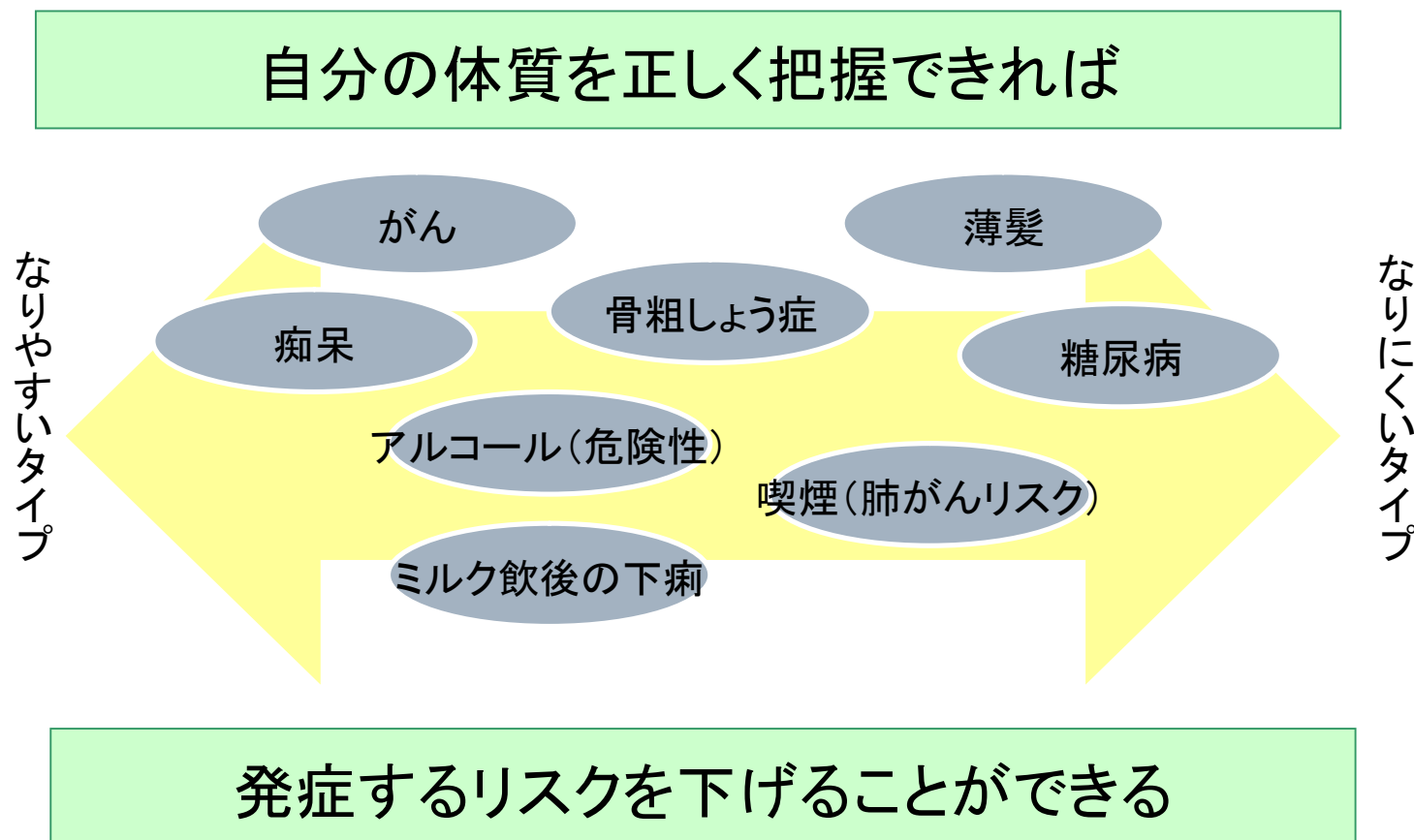
2-18. メディビック 健康・医療市場での新サービスの展開

個人が自己の遺伝情報を利用すると、体質を正しく把握でき、
発症するリスクを下げるができる。

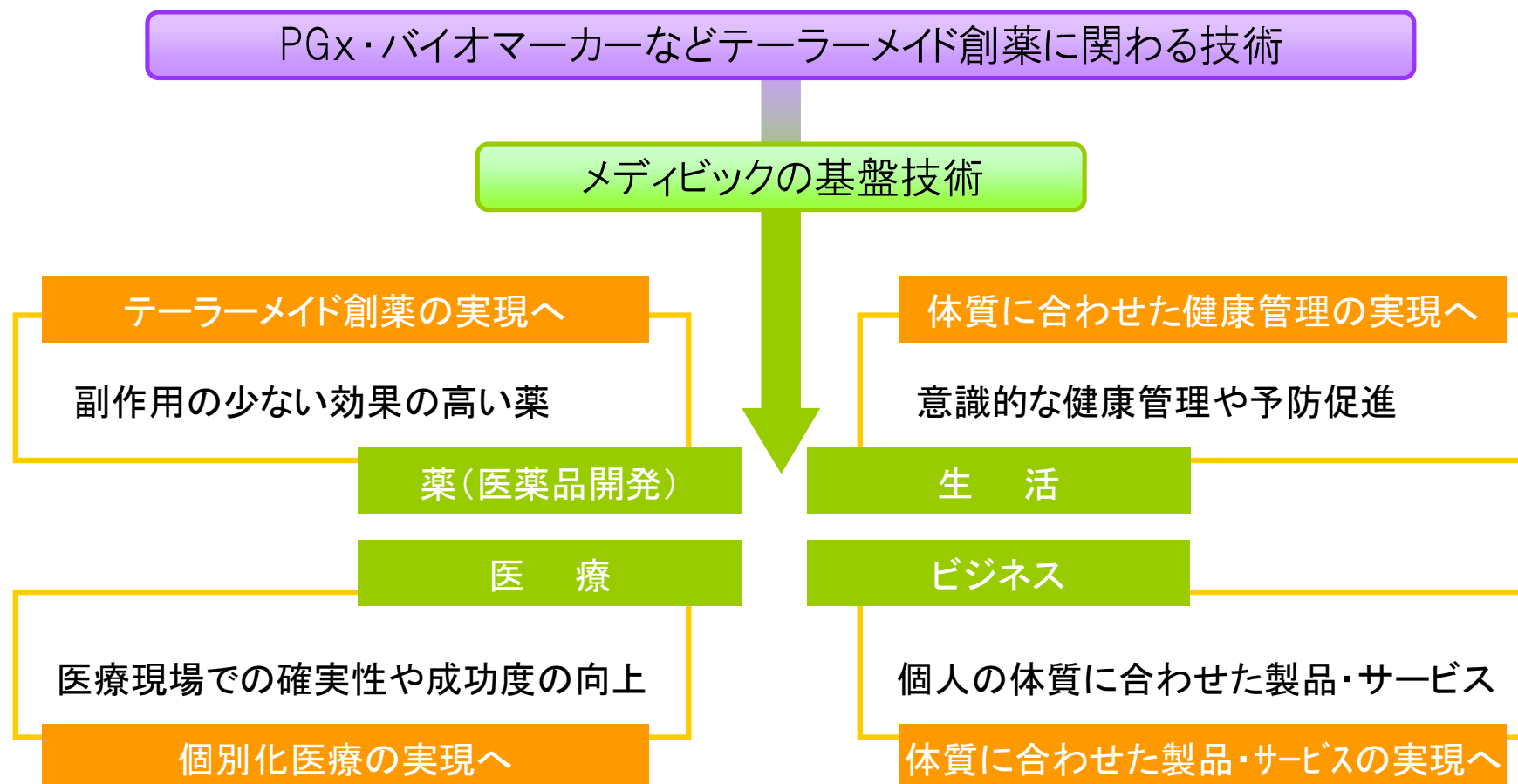


バイオマーカー創薬支援事業のインフラやノウハウを活用し、
健康・医療市場における新サービスの展開も予定している。

2-19. 新サービスで提供できるサービスとは



2-20. メディビック 当社の使命とこれからの社会



株式会社メディビックグループ

www.medibic.com

◇ 当資料取り扱い注意点

本資料に記載されている、当社または当社グループに関連する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、事業の認識、評価などといった、将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく、本資料の日付時点における予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・予想数値を算定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・予想を行うために不可欠となる一定の前提(仮定)については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に係わらず、常に当社が将来の見通しを見直すとは限りません。これらの記述ないし事実または前提(仮定)が、客観的には不正確であったり将来実現しないという可能性の原因となりうるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。